SEEDS Asia Newsletter Vol.56 (Jan.,Feb. 2017)

SEEDS Asia 10 周年記念会合にて

At the meeting to Commemorate 10th Anniversary of SEEDS Asia

Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこの SEEDS のロゴをかざすと簡単に寄付ができます。】

Table of Contents Vol.56 (Jan., Feb. 2017)

・本部からのお知らせ
・熊本：熊本地震被災者支援
・丹波市：丹波市まちづくり協働事業
・東北：東日本大震災被災者支援事業
・バングラデシュ：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
・インド：参加型コミュニティ防災推進事業
・ミャンマー：USAID の能力強化支援プロジェクト
・フィリピン：セブ州における防災教育の技術移転事業
・ネパール：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト
& 2015 ネパール地震被災者支援事業
・日本：防災講演会の講師派遣＆京都市委託福祉避難所の運営ガイドライン

・Announcements from Headquarters
・Project on Support for people affected by Kumamoto Earthquake
・Joint Project with Tamba City on Community Development
・Project on Support for people affected by Great East Japan Earthquake & Tsunami
・Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh
・India: Project on Participartory Community-Based DRM
・Myanmar: Project on Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management
・Philippines: Project on DRR Education with School- Community Linkage in Cebu
・Nepal: Project on Capacity Building of DRM for Village Development Committees & Support for people affected by Nepal Earthquake in 2015
・Japan: Dispatch of lecturers for DRR classes & Revision of the guideline on welfare evacuation shelter in Kyoto city

（特定非営利活動法人 SEEDS Asia）

〒658-0072
3-11-30-302 Okamoto,
Higashi Nada ku, Kobe, Japan
神戸市東灘区岡本3-11-30-302
Tel: 078-766-9412
Fax: 078-766-9413
Email: rep@seedsasia.org
Web: www.seedsasia.org
Facebook:http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923

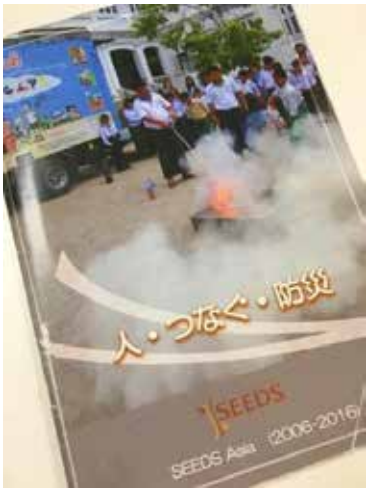
本部からのお知らせ

【SEEDS Asia 10 周年記念会合の開催】

SEEDS Asia は、2016 年 9 月に、おかげさまで設立から 10 周年を迎えました。阪神・淡路大震災から 22 年を迎えた 1 月 17 日には、設立 10 周年の記念冊子「人・防災・つなぐ」を発行し、19 日には役員、シニアアドバイザー、スタッフらが国内外から集合し、10 周年記念会合を開催しました。会合では 10 年の活動の軌跡を振り返ると共に、今後の課題や中期計画の方向性について協議しました。

事業の展開・実施に関わる皆様の温かいご支援とご協力に心から感謝申し上げますと共に、これからもご支援ご指導の程、これからもよろしくお願い申し上げます。

10 周年記念会合



10 周年記念冊子

熊本地震被災者支援

【赤い羽根共同募金】

熊本地震後、初めての冬を迎え、被災者の方々を取り巻く環境が厳しくなってきました。一方、宇城市内で 6 カ所ある仮設住宅団地において、コミュニティ再編のための拠点となる集会所が設置されていたのは 2 カ所のみでしたが、残りの 3 カ所の仮設住宅団地にも新たに集会所が建設されることが決定しました。

このような状況下、SEEDS Asia が運営支援をしている宇城市地域支え合いセンターが担う「個人への支援」「コミュニティ活動の支援」の役割はますます重要になっています。

支え合いセンターの相談員とお茶会会場へ

みなし仮設住宅への支援

地域支え合いセンターでは、自宅が被災したため、民間のアパート等に引っ越しを余儀なくされた被災者への戸別訪問が始まりました。宇城市外へ引っ越しをされた方も含め、一軒一軒訪ねることで、電話だけでは把握が難しい現状を確認しています。

このような中、普段からの地域とのつながりがいかに大切かを教えられた、岡本さんの事例をご紹介します。

岡本さんは名古屋で暮らす息子さんとは離れ、生まれ育った宇城で一人暮らしをしています。長年、宇城市社会福祉協議会が主催する介護予防のプログラムにボランティアとして参加し、地域福祉を支えてこられました。80 歳を超えた今は、介護予防プログラムのお手伝いをする側から利用する側となられましたが、毎週、顔馴染みの友人と会い、おしゃべりをしながら様々なプログラムを楽しんでおられる様子を笑顔いっぱいで話してくださいました。

震災時は趣味の詩吟に出掛けており、帰ってくるとご自宅は全壊でした。家の解体をしていただいた方に車を譲り渡し、心配した息子さんからは名古屋で一緒に暮らそうと誘われました。しかし、岡本さんにとって、知り合いのいない場所へ行く選択肢はありませんでした。実際に、ボランティアや詩吟教室の仲間が「人生を楽しんで生きている先輩」として岡本さんを慕い、困りごとがあるときはもちろん、日々の買い物なども自然に手助けをされています。訪問した地域支え合いセンターの相談員からも「これまで蒔いてきた種が上手に実っているのを見ることができ、心がほっこりしました」との感想が漏れるほど、不便さを、震災前よりも固い絆に支えられ、笑顔で乗り越えておられる姿が印象的でした。

みなし仮設住宅での聞き取りの様子

丹波市：丹波市まちづくり協働事業

【丹波市まちづくり協働事業/CWS Japan（UMCOR）】

防災指定校連絡会議（第６回）の開催

2017 年 1 月 26 日、丹波市教育委員会、防災指定校の 4 校の代表者、震災・学校支援チーム（EARTH）員と SEEDS Asia が集まり、2016 年度事業最後となる、第 6 回防災指定校連絡会議を開催しました。

今回の会議では、次年度以降に市内の全小中学校での防災授業で活用して頂くための副教材の内容について議論し、その内容を概ね固めました。また、各学校が防災活動に関する年間指導計画作成の際の参考として頂く、同計画のモデルプランについても議論しました。

会議終了後、丹波市教育委員会と SEEDS Asia で議論を重ね、副教材及びモデルプランを完成させました。

次年度は、今年度の防災指定校 4 校に、さらに新規に 4 校が加わり、8 校体制で防災教育の実践活動を進めていく計画としています。

防災指定校連絡会議（第 6 回）での議論

丹波市防災教育研修会の開催

2 月 14 日、丹波市教育委員会の主催、SEEDS Asia の協力で、丹波市防災教育研修会が開催されました。これは、今年度 1 年間の防災指定校との防災教育の実践の成果を市内全校の教頭を対象に伝えることで、次年度以降の各校での防災教育を推進する目的で開催されました。丹波市において、全校対象の防災教育の研修を開催したのは、今回が初めてとのこと。研修会では、指定校連絡会議の議論を重ねて開発した副教材の内容についても説明し、次年度からの各校での活用を促しました。

防災教育研修会での副教材の内容説明

吉見小学校での防災登下校

2 月 15 日、丹波市立吉見小学校で「防災登下校」が実施されました。これは、児童が下校の時間を利用して地域の方々と一緒に地区を歩くことで、災害や防災に関連することだけでなく、ふるさとの素晴らしい点について気付ける機会として提案された活動です。学校から依頼を受けた地域住民の方々は、この授業のために、手作りのハザードマップを用意し、災害の危険性について説明するとともに、治水ダムや森林保全の大切さなどを力説されました。地域資源が豊富な同校の校区を実際に見てまわることで、大変充実した活動となりました。

地域住民による治水ダムの説明

東北：東日本大震災被災者支援事業

【UMCOR・CWS Japan 支援事業】

入谷小学校での SDRA 実施と防災対策に関する協議

2017 年 2 月 22 日、南三陸町入谷小学校を訪問し、同校の校長、安全主幹教諭とともに SDRA（学校災害回復力調査）を実施しました。今回の SDRA は、京都大学が開発した Web 版の SDRA を活用しました。

入谷小学校は、今年度、宮城県の防災教育研究実施校の指定を受け、防災教育を積極的に実施しています。また、今年度当初より、SEEDS Asia も協力し、学校と地域住民が防災教育について協議するため、防災教育推進委員会が組織されました。本事業の一環で、同委員会メンバーである学校・地域住民双方の代表者が、神戸・丹波・京都視察研修にも参加し、学校と地域の連携による防災教育について学びを深めていました。

こうした活動が功を奏してか、SDRA のスコアは、非常に高い結果が得られました。一方で、学校教員との協議では、県の指定校でなくなった後も、持続的に防災教育を実施し、SDRA の高スコアを維持させることが課題である、といったことも把握されました。

こうした持続可能性の確保の鍵は、地域との連携体制の維持であることから、SDRA の結果を防災教育推進委員会で共有し、次年度以降の防災教育の実施体制・内容について協議することとしました。

SDRA の実施結果をもとに入谷小学校
の防災対策について議論

アクサユネスコ減災教育教員研修会発表会

2017 年 2 月 24 日、日本ユネスコ協会連盟主催、アクサ生命保険株式会社協力で、減災教育プログラム活動報告会が開催され、SEEDS Asia はグループディスカッションの講師として協力しました。このプログラムは、全国から選抜された約 30 名の教員が、9 月に気仙沼市を訪問し、防災教育に関する研修を受講した後、各校に戻って防災教育を実践する、というもので、2 月 24 日はその成果発表会でした。

このプログラムでは、SEEDS Asia が支援活動を実施している熊本県宇城市から、小川中学校も参加しています。このプログラムでの参加が縁となり、宇城市の仮設住宅でのコミュニティ活動に同中学校の生徒会が参加するといった交流活動を展開することができました。成果発表会では、この活動について、同中学校の教員からも発表があり、今後も生徒会を中心に、地域の復興や防災にかかわっていく意欲が示されました。このプログラムを通して、気仙沼の経験が他の被災地でも生かされていると実感しました。

発表会で SEEDS Asia との連携による生徒会の仮設住宅での
活動について発表する小川中学校（宇城市）の教員

バングラデシュ

【JICA 草の根事業協力：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】

災害リスクアセスメントレポート出版イベント

昨年 6 月から 8 月にかけて BRAC 大学の協力のもと北ダッカ市全 36 区で実施した災害リスクアセスメント調査 (Urban Disaster Resilience Index) のレポートがようやく完成しました！出版に際し、2 月 16 日に出版記念イベントを開催しました。イベントには、北ダッカ市長をはじめ、北ダッカ市 CEO、区長、JICA バングラデシュ事務所長、また、消防局や大学、ボランティア、NGO といった関係者が出席しました。

調査では、ダッカ市の災害対応力レベルは 2010 年時点に比べ向上したものの、それは主にインフラの整備と所得の向上によるものであることが分かりました。一方、都市計画における防災の主流化、災害対策制度の整備、コミュニティの災害への備えといった面では 2010 年から変化が見られませんでした。

SEEDS Asia 理事長ショウ ラジブによる基調講演では、UDRI の位置づけと目的、そしてコミュニティ防災の重要性を、他の各国都市での実践例とともに議論し、調査結果を具体的な活動計画につなげていくことの重要性を強調しました。北ダッカ市長は、調査結果を受け、安全なまちづくりのための市の役割と取組みを示すとともに、区長がリーダーシップをとり実行可能な防災活動計画を作り実践するよう強く呼びかけました。

イベントの様子は、翌日の地元紙およびテレビユース、オンラインニュースで広く取り上げられました。

出版記念イベントにて

北ダッカ市第 17 区にてタウンウォッチング実施

2 月 9 日、北ダッカ市第 17 区にて、北ダッカ市で初となるタウンウォッチングを実施しました。タウンウォッチングには、区長をはじめ市職員、区内のアーバンボランティア、モスクの運営委員会メンバー、そして区事務所周辺の住民が参加しました。タウンウォッチングでは、絡まった電線や使われていない電柱、路上でのビジネス、無造作に積まれたガスシリンダーなどが危険個所として指摘されました。参加者は、災害を想像しながら普段の道を歩くのは初めての経験で、普段気に留めない事柄について新しい気づきがあったと話していました。

第 17 区の区長は昨年 12 月に開催したマカティ市における第三国研修に参加したうちの 1 人で、マカティ市での学びを活かし、タウンウォッチングおよびマップ作りをリードしてくれました。

タウンウォッチングの様子

インド

【日本 NGO 連携無償資金協力事業：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

SEEDS Asia はインドのバラナシ市において、防災教育／気候変動教育の拠点となる「クライメートスクール（CS）」の 5 校と、CS が位置する 5 地区に地域防災協議会を設置し、コミュニティ防災組織のモデルづくりを進めています。2017 年 1 月、2 月は下記の活動を行いました。

事業第 2 期開始ワークショップ

1 月 24 日、1 年次事業の成果を確認すると共に、2 年次の計画や目的を共有するためのワークショップを開催しました。バラナシ県最高開発責任者であるプルキット・カレー氏とインド気象局ウッタル・プラデーシュ州事務所の J. P. グプタ氏がゲストとして出席し、CS4 校の教員 8 名、3 つの地域防災協議会から 6 名の他、第 2 期から事業に加わるアウトリーチ校 15 校の教員 20 名が参加しました。

ワークショップでは、第 1 期の活動を振り返るほか、防災や気象に関する知識をより深めるために日本とインドからの専門家がそれぞれの分野について講義しました。また、本事業の持続発展性の確保のために、カレー最高開発責任者の呼びかけよってバラナシ県の消防局、教育局、保健局の職員が参加し、各局の活動について情報を共有しました。

また、SEEDS Asia 理事長のショウ ラジブが、アジアにおける防災分野の科学技術と日常生活の乖離について触れつつ、「本事業は、科学的データに基づく地域防災活動のモデルづくりによって、災害からのダメージを減らすことが出来る」と述べ、事業の目標とその先の展望を示しました。

さらに、SEEDS Asia、気象局、BHU との間で、市民防災活動推進センター設置に関する協定に署名し、同センター設置に向けてそれぞれの専門性を活かしながら協力していく旨を確認しました。

第 2 期には、気象観測情報や大気汚染観測情報の収集・発信、学校や地域を対象とした消防、応急処置、水と衛生に関する実践研修が盛り込まれています。本ワークショップの開催によって、防災教育に関わる様々な機関と対象校との連携が強化されると共に、対象校教員の意欲の高まりを確認することができました。

ワークショップの様子

消防に関する講義とデモンストレーション

2 月 11 日、消防と救助の講義とデモンストレーションを、ウッタル・プラデーシュ州バラナシ消防署の指導のもと、CS の一つであるアーリヤン国際校にて実施し、CS2 校の教員 20 名、地域社会 5 地区の 39 名、アーリヤン国際校の生徒 410 名が参加しました。参加者からは、「台所のガス漏れと出火にどのように対応すればいいかわかった」、「内容が興味深く参加して良かった」などの感想をいただきました。

消防に関する講義とデモンストレーションの様子

応急処置、水と衛生に関する研修

2 月 25 日と 26 日には、CS の一つであるラージガット・ベサント校にて、教員 40 名と地域防災協議会 10 名、学生 300 名が参加する応急処置、水と衛生に関する研修を実施しました。研修第 1 日目の帰路に、女性が目の前で転倒する出来事に遭った参加者からは、「咄嗟に首の動脈を確認するという行動をとることができ、研修で学んだことが直ぐに役に立った」という報告もあり、効果の高い研修となりました。

ラージガートでの First-aid と WASH トレーニングの様子

ミャンマー

【USAID　国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

社会福祉救済復興省・復興救済局をカウンターパートとして、ミャンマー国家防災マネジメントトレーニングセンターにおける防災マネジメントトレーニング及び防災に関わる研究や啓発のプロジェクトを実施しています。2017 年 1 月から 2 月の活動は下記のとおりです。

(* 共同コンソーシアムメンバー：UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED 他 .
技術協力団体：UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA 他)

CCRI（湾岸地域コミュニティの災害回復力調査）及び CDRI (気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ) に関する冊子の作成

ヤンゴン工科大学及びダゴン大学との連携の下、既に実施した CCRI（湾岸地域コミュニティの災害回復力調査）及び CDRI (気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ) の調査結果をまとめた冊子の作成を行っています。冊子の内容には調査方法、調査内容、26 地区の対応力評価、調査結果に基づく政府機関への助言などが含まれており、政府機関、現地 NGO、国際 NGO を対象に配布される予定です。

大学機関を対象とした防災調査に関する研究論文のサポート

CCRI 及び CDRI の調査結果を分析した研究論文の発表が予定されています。それに伴い、SEEDS Asia は学術論文に関する参考書及び技術的文献をヤンゴン工科大学並びにダゴン大学に寄贈することを予定しており、5 月中には論文を執筆する著者を対象とした国内外の研究誌寄稿や論文執筆に向けたワークショップが開催される予定です。

赤十字と協力の下、教員向け移動式防災教室をヤンゴン市内の高等学校にて実施

2017 年 1 月、ヤンゴン市内にあるカマユ地区、タムエ地区、サンチャウン地区にある高等学校各 3 校にて、移動式防災教室を用いた防災教育指導員養成研修（合計 9 校）を実施しました。当研修は国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化共同プロジェクトの下、赤十字と連携して実施しているもので、研修の後、学校の教員が生徒に防災教育を提供できるようになることを目的に実施されました。研修を受けたドー・ティ・ティ先生（52 歳・カマユッ高等学校）は「防災に対する準備と知識を共有することによって、災害のリスクを軽減させることができると信じています」と感想を述べました。また、マ・ミャ・カティさん（13 歳・カマユッ高等学校）は次のように感想を述べました。「防災に関するたくさんの知識を得ることができました。他の人たちと共有しようと思います。稲むらの人のお話がとても好きです。また防災教育をしに来て欲しいです。」

タウン・ウォッチングにてハザードマップを作成中の学校教員

地域住民や生徒向けの防災研修をラプタ区防災活動センターにて実施

2 月 1 日より 2 日間、ラプタ地区防災活動センター（ラプタ地区の高等学校内）にて、防災啓発を目的とした移動式防災教室を用いた防災研修が開催されました。防災活動センター委員会の方々が SEEDS Asia と協力の下、コミュニティメンバー並びに学校生徒を対象とした防災教育を提供しました。テウン・ウィンさん(54 歳・男性)より次のような感想がありました。「研修に参加できたことをとても嬉しく思います。私たちは防災についてたくさんの事を学ぶことができました。コミュニティ内で情報を共有していきたいと思います。」また、エイ・サンダー・ピョさん（１４歳・女性）は「今までこんなに防災について学んだことはありませんでした。防災のために必要な事前対策をこれからしていこうと思います。また、研修に参加できなかった人や生徒にも研修で学んだ事を共有していきたいです。」と感想を述べました。

生徒に防災教材について説明しているラプタ区の防災リーダー

フィリピン（セブ）

【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業】

第 2 回教育における防災力フォーラム

2014 年 11 月に始まった「セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業」も 2017 年 3 月でいよいよ終わりを迎えます。事業終了を目前に、2 月 13 日、事業成果報告会を兼ねた「第 2 回教育における防災力フォーラム」をマニラにて開催しました。このフォーラムには事業の実施パートナーである兵庫県教育委員会、フィリピン教育省本省および第 7 地方事務所、JICA フィリピン事務所から代表者が参加しました。

2 月 10 日にミンダナオ島北スリガオ州で発生したマグニチュード 6.7 の地震の直後に開催されたイベントとあって、参加者にとっては改めて防災教育がコミュニティの防災力を高める上で果たす役割の重要性を認識する大変貴重な機会となりました。

SEEDS Asia 理事長による基調講演では、学校の災害に対するレジリエンス評価方法の紹介と、調査結果を数字として置いておくのではなく行動に移していくことの重要性について、日本の気仙沼市における実践例を交えた講話がありました。

また、フィリピン教育省本省防災管理室室長からは、スリガオ地方で発生した地震による学校被害状況の報告が伝えられると共に、教育省の防災教育への取組みと政策が力強く語られました。

兵庫県教育委員会の防災教育行政専門家からは「防災教育の仕組み化と持続可能性」と題した講演が行われ、阪神・淡路大震災以降 22 年かけて兵庫県が培ってきた防災教育の知見と経験が共有されました。講演の中で流された阪神・淡路大震災当時の映像や東日本大震災時の専門家の体験談は、講演後に「とても印象的だった」との声が聞かれ、参加者の心に大きなインパクトを与えたことがわかりました。

2 年半以上にも及ぶ本事業の成果の 2 本柱は、防災教育を実践する教員の研修プログラムを開発したことと、防災教育を既存のカリキュラムに統合して実践するための手法を開発したことです。これらのプログラムや手法の開発は、フィリピンでも初めての取組みでした。その成果は、「防災教育ガイドブック」として取りまとめ、同フォーラムでお披露目し、フィリピン全土の教育関係者に伝えました。

パネルディスカッションでも、防災学習を既存のカリキュラムに融合させる取組みについて、セブ州の教育省の各レベル（第 7 地方事務所、地区事務所および防災教育モデル校・推進校）からそれぞれ 1 名をパネリストとして選出し、ディスカッションを行いました。その中で、21 の防災教育アクティビティを通じた実践的体験型学習や、児童・生徒が主体的に関わることを重視した本事業のアプローチのユニークさがパネリストによって強調されました。また、本事業を通じて教員、児童・生徒といった事業受益者の防災への意識が高まったことが改めて評価されました。

ディスカッションの中で、第 7 地方事務所所長により「SEEDS Asia は私たちが意思決定し、行動するための道を舗装してくれた存在であり、防災教育を推進していくのは他でもない私たちなのだ」というメッセージが伝えられました。このメッセージは、SEEDS Asia がカウンターパートである第 7 地方事務所と着実に信頼関係を築いてきたことの賜物であると言えます。そして、この第 7 地方事務所の主体性により、本事業で始まった取組みがさらに展開されていくことが期待されます。

第 2 回「教育における防災カフォーラム」にて集合写真

防災教育推進のための人材開発とカリキュラムへの融合をまとめた防災教育ガイドブック

ネパール

【中央共同募金会：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト】

プラノ・ジャンガジョリ VDC での防災ワークショップの実施

SEEDS Asia は、2015 年 4 月のゴルカ地震で被災したシンズリ郡ドゥンジャ地区内の 3 村を対象に、現地団体の CDCCS（Center for Disaster and Climate Change Studies）と協働で、コミュニティの防災能力向上のための支援事業を実施しております。これまで、対象 3 村のうちの 1 つ、プラノ・ジャンガジョリ村開発委員会（VDC）との協議・調整を重ね、1 月 29 日から全 6 回の予定でワークショップを開始しました。第 1 回目は、ネパールにおける災害リスクとコミュニティ防災について（1 月 29 日）、第 2 回目は、2015 年ネパール地震の被害や対応について（2 月 4 日）、第 3 回目は、災害に対する備えや VDC の対応について（2 月 11 日）、というテーマで実施しました。これらの 3 回のワークショップで、参加者は、災害に関する基礎的な知識を学ぶとともに、ネパール地震での振り返りにより、当時の対応に関する問題・課題を把握することができました。例えば、「地震がどういうものか知らなかったので、不安になり、損壊した建物の中に留まったままだった」「VDC としての対応は何をすれば良いのか、まったくわからなかった」などです。

一方、今後、地域で想定される災害として、ワークショップで検討した結果、まずは干ばつ対策が喫緊の課題である、という現実も浮かび上がりました。その結果、第 4 回目のワークショップ（2 月 25 日）では、演劇により広く住民に干ばつ対策を進めていくことを訴えていくことを目的に、演劇のシナリオづくりを行いました。

3 月以降もワークショップを重ね、コミュニティ防災の啓発活動を実践するとともに、今後の継続的な防災活動実施のための議論を重ねる予定としています。

第 1 回ワークショップ終了後、会場前で参加者が記念撮影

2015 年ネパール地震の時の対応について振り返り、当時の状況について書き落とした

チームひょうご第３回報告会での発表

「チームひょうご」は、ネパール地震の支援や調査研究を実施している兵庫県内の大学や NPO で構成された組織です。2 月 20 日、チームひょうごの第 3 回活動報告会が開催され、SEEDS Asia は、本事業の実施状況や今後の予定について報告しました。また、大学や他の支援団体から、現地の状況について情報交換を行いました。

チームひょうご第 3 回発表会の様子

日本

【講師・講演会派遣】

SEEDS Asia では、全国の学校や地方自治体、私企業などの民間組織・団体の講演会やイベント等、幅広い方々を対象に、講師を派遣しています。2017 年 1 月ー 2 月には以下の講師派遣を実施しました。

高知県貿易協会賀詞交換会国際化セミナー (於：高知県・高知市)

2017 年 2 月 1 日、SEEDS Asia の海外事業統括である大津山光子が 、高知県・高知会館にて「その国で暮らし、働くということ－インドとミャンマーの 11 年間－」を演題に講演を行いました。

同講演会は、高知県の私企業を会員とする公益社団法人高知県貿易協会が高知県と共同で開催した同協会賀詞交換会 「国際化セミナー」の一環で、約 50 名の会員企業、高知県職員、JETRO(日本貿易振興機構) の方々が参加されました。著しい経済成長を遂げつつあるアジアにおいて、事業実施国の歴史や文化について知ることや配慮することの重要性は、営利か非営利に拘わらず、その国で求められるサービスを提供する際の共通課題であるという認識に立ち、仕事や生活を通じて見聞きしたインドやミャンマーの話を中心に講話を行いました。

セミナー案内ポスター

三重県立昴学園高等学校　国際交流系列 (於：三重県・多気郡大台町)

2017 年 2 月 22 日、三重県の大台ヶ原の麓に位置する三重県立昴学園高等学校の国際交流系列 2 年生を対象とした授業において、海外事業統括の大津山光子が講師となり、「ムカデに学ぶ道の歩き方」という演題で講演を行いました。

同講演会は、同校が実施している「プロフェッショナル授業」と呼ばれるクラスの一環で、今後の進路を決定する高校 2 年生を対象として外部講師が招かれ、仕事や働くということについて学び、今後の進路選択の参考にするものでした。大津山からは、自由句の代表として知られる俳人・種田山頭火の歌「百足の足をごらんなさい」にちなんだタイトルの講演が行われ、進路選択における「軸」の重要性と、インドやミャンマーで SEEDS Asia が展開している防災教育について講演を行いました。受講した生徒からは、「インドには未だに現在、カースト制度や貧困問題があるということ、ミャンマーでは災害についての情報や教育の不足がある一方で、日本では差別や貧困問題が少ないこと、災害への勉強がしっかりされていることが当たり前となっていることに感謝をしたい。そして、日本でのそういった「当たり前」が全世界での「当たり前」になっていってほしいと思った。(男子生徒)」や、「話を聞いて進路について考えるきっかけになりました。授業や、出会った本など、小さなことが将来を決めるきっかけとなり、またそれに向かっていくことが大事なんだなと思いました。私も海外で働いてみたいとは思っているのですが、やりたいと思うなら頑張って毎日勉強しなければ、と思うきっかけになりました。海外の文化、歴史に興味を持ちました。本などを読みたいと思いました。話を聞いて世界が広がったような気がします。自分で全部決めなければいけない時期になってとても不安な部分がありますが、昴で学んだとこが活かせる社会人になりたいです。(女子生徒)」といったコメントがありました。

SEEDS Asia では、今後も引き続き講師派遣を行います。幅広い方々を対象に講演を行うことができますので、ご関心のある方は rep@seedsasia.org SEEDS Asia 事務局　講師派遣係 までご連絡をお願い致します。

昴学園高校での授業

【京都市委託事業】

京都市福祉避難所運営ガイドライン改定

SEEDS Asia は、2016 年度に京都市福祉避難所運営ガイドラインの改訂業務を京都市から受託し、2017 年 3 月よりその改定版が京都市で運用されることになりました。

福祉避難所とは、避難生活において一定の配慮を要する方を対象とする避難所のことです。一般の避難所への避難後に，そのまま一般の避難所での生活を続けることが困難な方を対象とするため，二次避難所とも呼ばれています。

2016 年 4 月の熊本地震では、市町村と事前に福祉避難所協定を結んでいた社会福祉施設に一般の避難者が殺到するなどして、要配慮者の受入れができなかった例が報告されています。2013 年に内閣府が実施したアンケートでは、76% の回答者が「福祉避難所がどういうものかも、自分の住んでいる地域のどこにあるかも知らなかった」と回答しており、福祉避難所の認知度向上は課題となっています。

改定した京都市福祉避難所運営ガイドラインは、2017 年 4 月より、以下の URL にて公開される予定です。施設管理者向けのガイドラインですが、これを機会にぜひご覧ください（ガイドラインは日本語のみです）。
http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000214221.html

京都市福祉避難所運営ガイドラインの表紙

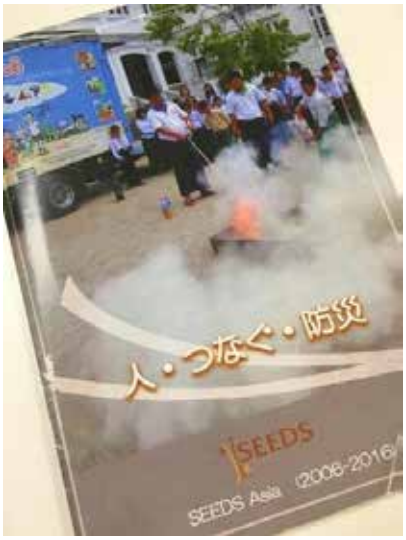
Announcements from SEEDS Asia

Meeting to Commemorate 10th Anniversary of SEEDS Asia

With a great amount of support from all partners and donors, a decade has passed since the establishment of SEEDS Asia. To commemorate 10th anniversary, a booklet named “People - Connectivity - Disaster Risk Reduction” was publicized on 17th January 2017- the day that marked 22nd anniversary of the Great Hanshin-Awaji Earthquake. On 19th January, the 10th anniversary meeting of SEEDS Asia was held in Kobe with attendance of all board members, senior advisors and staff from Japan and some other project offices in Asia to celebrate and to review the activities in the past decade as well as to plan for the coming years.

SEEDS Asia's secretariat would like to take this opportunity to express our sincere appreciation for your kind support for and cooperation with SEEDS Asia. Your kind guidance and great support are deeply appreciated and we hope to receive them in the coming years, too.

10-year anniversary meeting



10-year anniversary booklet

Kumamoto Earthquake

Central Community Chest of Japan

It was the first winter after the Kumamoto Earthquake occured; affected people have faced harsher environment. Meanwhile, in six temporary housing complexes in Uki city, only two used to have gathering places, but it was determined that other three complexes would also have gathering places newly built.

Under this circumstance, the support for individuals and for community activities by Uki City Community Mutual Support Center, whose operation SEEDS Asia is supporting, will play a more important role.

Going to a tea gathering with a consulting staff
from the Community Mutual Support Center

Support for public-funded rental temporary housing

The Community Mutual Support Center has started door-to-door visits to the affected people who had to move to private apartments after their own houses were damaged in the earthquake. The conditions that were difficult to grasp through only telephone are being confirmed through the visits to even the houses outside Uki city.

We would like to introduce a story of Mrs. Okamoto that helped us learn the importance of the connection with local community from daily life.

Mrs. Okamoto is living alone in Uki city where she was born and bred, apart from her son who is living in Nagoya. She has contributed to the welfare of the local community for many years by taking part in the preventive care program organized by Uki City Social Welfare Council as a volunteer. Now that she is more than 80 years old, she changed her part from the one who assisted the preventive care program to the one who uses it. With a face full of smiles, she told that every week she met her familiar friends, talking to them while enjoying various programs.

When the earthquake occurred, she was going out for Shigin (the art of reciting Chinese poems) as one of her hobbies, and as she came back, she found out that her house totally collapsed. A car was handed over to her by the person who helped in the demolition of her house, and she was also invited by her own son to Nagoya to live together. However, she did not choose to go a place without acquaintances. In fact, her friends in Shigin class or her fellow volunteers are beside her as "the senior friends in living and enjoying life" , not only in times of trouble, but also in daily life, for example, when they help her in shopping. With her way of overcoming the inconvenience after the earthquake with smiles and even stronger bond with others, which left a deep impression, she made even the consulting staff from the Community Mutual Support Center who visited her feel that "heart is warmed up to see the seeds that have been sowed until now bear fruits successfully" .

Listening at public-funded rental temporary housing

Tamba City

Joint Project with Tamba City for Community Development, CWS Japan (UMCOR)

The sixth liaison conference for appointed DRR schools

On 26th January 2017, Tamba City Board of Education, representatives from four appointed disaster risk reduction (DRR) schools, members from EARTH team (Emergency And Rescue Team by school staff in Hyogo) and SEEDS Asia gathered at the sixth liaison meeting for appointed DRR schools as the final meeting of the fiscal year 2016.

In this conference, the content of the supplementary teaching book that will be used in all elementary schools and junior high schools throughout the city from the next fiscal year was discussed and mostly determined. Moreover, there was also a discussion about the model plan as reference for the DRR education annual instruction plan in each school.

After the conference ended with some more discussion, Tamba City Board of Education and SEEDS Asia finalized the model plan and the supplementary teaching book.

In the next fiscal year, it is planned that four (4) more schools will be appointed as DRR schools, besides the previously-appointed four (4) DRR schools, which means that practical activities of DRR education will be developed with a system of eight (8) appointed schools.

Discussion at the sixth conference for appointed DRR schools

Training workshop on disaster risk reduction (DRR) education in Tamba city

On 14th February, a training workshop for DRR education in Tamba city was organized by Tamba City Board of Education in cooperation with SEEDS Asia. This workshop aimed to promote DRR education in each school from the next fiscal year by conveying to vice-principals of all schools in the city about the achievements of the implementation of DRR education at appointed DRR schools in this fiscal year. This was the first time that a training workshop on DRR education had been held for all schools in Tamba city. The workshop explained the content of the supplementary teaching book that was developed after many discussions of appointed DRR schools, and also stimulated utilization of the book in each school from the next fiscal year.

Explanation on the content of the supplementary teaching book at DRR education workshop

"DRR Commuting" at Yoshimi Elementary School

On 15th February, "DRR Commuting" was conducted at Yoshimi Elementary School in Tamba city. This activity was proposed as an opportunity for students to realize not only about disaster risks and DRR, but also about charming points of their homeland by walking around the local area with local people on their way back home from the school.

The local residents who were asked by the school to participate in the activity created a handmade hazard map; they explained the risks of disasters and emphasized the importance of a dry dam and forest preservation. The activity was fruitful in the way it helped the students to see rich natural resources of their school area.

A local resident explaining about a dry dam

Since the cooperation with local community is the key to secure sustainability, the result of SDRA will be shared among the Committee for the Promotion of DRR Education and the Committee will have a discussion on the implementation and content of DRR education from the next fiscal year.

Discussion about DRR measures in Iriya Elementary School based on the result of SDRA

The Great East Japan Earthquake

UMCOR・CWS Japan

Implementation of SDRA and discussion on disaster risk reduction (DRR) measures at Iriya Elementary School

On 22nd February 2017, SEEDS Asia visited Iriya Elementary School in Minami-Sanriku town and conducted School Disaster Resilience Assessment (SDRA) with the principal and senior teacher in charge of Safety Management of the school. The SDRA utilized this time was the Web version developed by Kyoto University.

Being appointed as a DRR education research school in Miyagi prefecture, Iriya Elementary School is implementing DRR education enthusiastically. Besides, at the beginning of this fiscal year, with the cooperation from SEEDS Asia, a Committee for the Promotion of DRR education was established for the school and the local residents to discuss DRR education. As part of this project, representatives from the school and the local residents also participated in a study visit to Kobe, Tamba, and Kyoto as members of the Committee in order to deepen their understanding about DRR education through cooperation between schools and communities.

SDRA score was extremely high, which indicated the success of the activity. Meanwhile, in the discussion with the school's teachers, it was pointed out that implementing sustainable DRR education and maintaining high SDRA score even after ending the status of an appointed school by the prefecture would be a challenge.

Presentation on the training in DRR education for teachers by AXA UNESCO

On 24th February 2017, in a Debriefing Session on DRR Education Program organized by the National Federation of UNESCO Associations in Japan in cooperation with AXA Life Insurance Company, SEEDS Asia cooperated as a lecturer in a group discussion. In this program, a group of 30 teachers were selected throughout the country and they visited Kesennuma city for training in DRR education in September. In this Debriefing Session, the teachers reported what they had achieved during their implementation of DRR education in their own school after they had come back from the training.

Ogawa Junior High School, which was from Uki city, Kumamoto prefecture where SEEDS Asia is organizing support activities, also participated in this DRR Education Program. Through the encounter with the school in this program, SEEDS Asia could develop the community activities in temporary housing in Uki city by planning exchange activity with the participation of the students from this school. In the debriefing session, there was also a presentation by a teacher from the school, which showed a will to get involved in recovery process and disaster risk reduction of the local community in the future with focus on the student council. It could be felt through this program that the experience of Kesennuma city was also being leveraged in other disaster-affected areas.

A teacher from Ogawa Junior High School (Uki City) was having a presentation on the activities by the student council at temporary housing in cooperation with SEEDS Asia

Bangladesh

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh

Launching of the UDRI Assessment Report

SEEDS Asia published a report of disaster risk assessment (Urban Disaster Resilience Index-UDRI)! The assessment was conducted in all 36 wards of Dhaka North City Corporation (DNCC) from June to August last year. On 16th February, the launch of the UDRI report was held with attendance of the Mayor, the CEO, zonal officer, and ward councilors of DNCC, JICA Chief Representative, officers of Fire Service and Civil Defence, university, urban volunteers, and NGOs working on urban DRR.

UDRI report revealed that the city' s overall resilience had risen since 2010 primarily because of infrastructure development and income increase. However, on the other hand, areas such as mainstreaming of DRR, disaster management framework, and community preparedness have not shown any improvement since 2010.

Rajib Shaw, Board Chairman of SEEDS Asia, in his keynote speech discussed the purpose of UDRI and importance of community DRR with practical examples of other cities. He emphasized how important it was to translate the findings of UDRI into action planning. Mayor then called on ward councilors to take leadership and plan workable DRR activities and implement.

The event was featured in newspapers, online news and TV on the next day.

Launching of the UDRI assessment report

Town Watching in Ward 17, Dhaka North City Corporation (DNCC)

On 9th February, SEEDS Asia carried out town watching in Ward 17, which was the first town watching in DNCC. Ward councilor invited city employees, urban volunteers, mosque committee members, and residents for the activity. In the town watching, participants identified tangled wires, illegal roadside business, gas cylinders with no security measures as dangerous points. They shared that it was their first time to walk their everyday street supposing a disaster happened and they found new things which they did not notice in their daily life.

The councilor of the Ward 17 was one of the delegates in our Makati visit in December 2016. With his learning in Makati, he led the town watching and map making.

Town watching in the Ward 17, DNCC

India

Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project for Participatory Community-Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi

SEEDS Asia has been promoting a model of the community-based Disaster Risk Reduction (DRR) by establishing five 'Climate Schools (CS)' as a focal point of DRR/Climate Change education, and five 'Citizen Forums (CF)' in each CS area.

The activities operated in January and February 2017 were as follows.

Mid-term Workshop and Seminar

On 24th January, SEEDS Asia organised the Mid-term Workshop and Seminar to review the achievements of the project' s first phase and share the activities and purposes of the second phase with the stakeholders. SEEDS Asia invited two guests, namely, Mr. Pulkit Khare, Chief Development Officer, and Mr. J.P. Gupta from the Meteorological Centre (CDO), Lucknow, India Meteorological Department (IMD), as well as 8 teachers from 4 CSs, 6 members from 3 CFs and 20 teachers from the 15 outreach schools which joined in the project from the second phase.

Dr. Rajib Shaw, Chairman of SEEDS Asia, clarified the project' s objectives and prospectus. He stated in his presentation on the gap between science and technology in the field of DRR and daily life: "the model of community-based DRR utilizing scientific data, which we are developing in this project, will achieve the mitigation of disaster risks and damage".

In the seminar session, the experts from Japan and India gave lectures on their own specialized theme, which enabled the participants to deepen their understanding of DRR and weather. Moreover, those who were called by Mr. Khare, CDO, such as the Uttar Pradesh (U. P.) Fire Service, the Department of Education and the Department of Health in Varanasi District, also introduced their activities.

The workshop was highlighted by the signing ceremony on the statement of collaboration between SEEDS Asia, IMD and Banaras Hindu University as experts on DRR, weather and science respectively, to establish the Citizen DRR Activity Promotion Centre.

The activities of the second phase includes data collection and output with regard to weather and air pollution and a series of training for CSs and CFs, such as firefighting, first-aid and WASH-PHAST. The Mid-term workshop contributed to the improvement of the collaborative relationships between various governmental agencies and schools and helped in motivating the teachers and community members.

At the Workshop

Firefighting and Rescue Demonstration

On 11th February, the Lecture and Demonstration on Firefighting and Rescue took place in collaboration with U. P. Fire Service at the Aryan International School, one of the CSs. 20 teachers from 2 CSs, 39 members from 5 CFs and 410 students of Aryan school participated in it. The demonstration was satisfactory, having the participants' comments, such as "I now can cope with a gas leakage and its fire" and "all that I learned was interesting and useful".

Lecture and Demonstration on Firefighting and Rescue

First-aid and WASH-PHAST Training

On 25-26th February, SEEDS organized the First-Aid and WASH-PHAST Training in collaboration with the National Disaster Response Force (NDRF) at the Rajghat Besant School with the participants of 40 teachers and 300 students from Rajghat Besant School and 10 members from its associated CF. It was another effective training session, proven by a participant' s experience that on his way back to home after attending the first day of the training, a lady was fainted in front of him, then he immediately touched her neck to count her pulses to examine her conditions.

First-aid and WASH-PHAST Training

Myanmar

USAID MCCDDM Project: Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management

SEEDS Asia is working on disaster management (DM) training and research, and public awareness of disaster risk reduction (DRR) at Myanmar National Disaster Management Training Centre (DMTC) under the project in cooperation with Relief and Resettlement Department (RRD) of Ministry of Social welfare, Relief and Resettlement (MSRR). The report on our activities in January and February 2017 is as follows.

(*Consortium of MCCDDM : UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED etc. Technical support agencies in the consortium: UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA etc)

Drafting booklets on Coastal Community Resilience Index (CCRI) and Climate and Disaster Resilience Index (CDRI) surveys

The booklets on Coastal Community Resilience Index (CCRI) and Climate and Disaster Resilience Index (CDRI) which summarize the results of the surveys are being drafted. They contain the information on research methodology, resilience of 26 townships, survey results, and policy recommendation to governmental agencies and they will be distributed later to governmental agencies, NGOs and INGOs.

Support in academic DRR research paper targeted at universities

It is planned that academic DRR research papers that analyze the results of CCRI and CDRI will be published. SEEDS Asia is going to donate technical books and reference books on academic research paper to Yangon Technological University and Dagon University. In addition, a workshop for the authors in May 2017 is being arranged.

DRR training utilizing Mobile Knowledge Resource Centre (MKRC) was implemented for high school teachers in Yangon in cooperation with Red Cross

In January 2017, SEEDS Asia conducted training of trainers with MKRC for teachers of basic education high schools in Kamaryut, Tarmwe and San Chaung township in Yangon region in cooperation with Red Cross. This activity is conducted under MCCDDM in cooperation with Red Cross and the training aims to help the teachers be able to provide DRR education by themselves. Daw Thit Thit, a 52-year-old teacher from a basic education high school in Kamayut township said: “I believe that we can reduce risks of disasters by our preparation and DRR knowledge sharing” . Ma Myat Kathy, a 13-year-old student from a basic education high school in Kamayut township said: “I gained so much knowledge about DRR. I will share it to others. I like "Inamura no-hi" story very much and wish you would come here to conduct the training again” .

Teachers making hazard map based on town watching

DRR training at the DRR Activity Centre in Labutta Township (MKRC)

For a couple days from 1st February, SEEDS Asia conducted training of trainers with MKRC for public awareness about DRR at the DRR Activity Centre (DRRAC) established in 2015 within Basic Education High School (2) in Labutta township. In cooperation with SEEDS Asia, committee members of DRRAC provided DRR education for community members and school students. U Tun Win, a 54-year-old participant from ward 6 in Labutta township said: "We all are very happy to attend the training today. We have gained so much knowledge about DRR. We will share it in our community." Another participant, Ma Ei Sandar Phyo, a 14-year-old student who was in grade 9 in B.E.H.S (2) Labutta said, "I have never gained so much knowledge about DRR like this before. After the training, I will prepare everything I need before disasters possibly occur. In addition, I will share my knowledge with other people and students in my ward who could not attend the training".

Teacher explaining to students about DRR education material

Philippines (Cebu)

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) through Cooperation between Local Communities and Education Sector in Cebu Province

2nd National Disaster Risk Reduction and Resilience in Education Forum

The current project which started in November 2014 will end in March 2017. On 13rd February, the "2nd National Disaster Risk Reduction and Resilience in Education Forum" was held in Manila as an ending event of the project. The Hyogo Prefectural Board of Education (Hyogo BoE), the Philippine Department of Education (DepEd) - Central Office and Regional Office VII, and JICA Philippines participated in this Forum as project partners.

This Forum was held right after an earthquake of magnitude 6.7 occurred on 10th February in the Surigao del Norte, a part of Mindanao Island in the Philippines. It was a very valuable opportunity for the participants to recognize again the importance of the role of DRR Education in enhancing community resilience.

The Keynote Message by the Board Chairman of SEEDS Asia introduced a survey method for school disaster resilience and community DRR based on examples in Kesennuma city of Japan, and emphasized the importance of putting the findings from assessments into actions.

Ms. Co, the Director of DepEd Central Office- Disaster Risk Reduction and Management Service updated the reported school damage by the earthquake in Surigao City along with DepEd' s efforts and policies for DRR Education.

One of the DRR Education Experts from Hyogo BoE gave a lecture on "Institutionalization and Sustainability of DRR in Education" . Through this lecture, the expertise and experience that were cultivated in Hyogo Prefecture in over 22 years since the Great Hanshin-Awaji Earthquake were shared. In the lecture, a video of the time of the Great Hanshin-Awaji Earthquake and the episodes based on the expert' s experience at the time gave a big impact to the participants' hearts.

This Forum also served as a venue for launching the DRR Education Guidebook as a compiling publication that introduces the project' s outputs. The two core outputs of this project which lasts more than two and a half years are the development of the training program for teachers who implement DRR Education (Capacity Building Training), and the method for integrating DRR Education into the existent curriculum (Curriculum Integration of DRR). This was also the first time that there had been an initiative to develop this program and method in the Philippines.

The panel discussion had each of the panelists selected from each level of DepEd- Regional Office VII, a Division Office, and each of DRR Education Model School and Promotion School, and discussed the curriculum integration of DRR. In the discussion, the uniqueness of the Project's approach of applying practical and experience-based DRR Education through 21 DRR Education activities which promote students' active involvement was emphasized by panelist. Furthermore, it was once again appreciated that the DRR awareness among the beneficiaries such as the teachers and students increased through this Project.

The Regional Director of DepEd Region VII insisted in the discussion - "SEEDS Asia has paved the way for us to make decisions and take actions, but it is no one else but us who will be the ones to promote DRR Education". This message is a fruit of building a trusting relationship between SEEDS Asia and DepEd Regional Office VII as counterparts in this project. This ownership of the Regional Office VII is expected to bring about further promotion and sustainability of DRR Education.

Group photo during the 2nd National
Disaster Risks and Resilience in Education Forum

DRRE Guidebook for Capacity Building
and DRR Education Curriculum Integration

Nepal

Project Funded by Central Community Chest of Japan: Project on Capacity Building of Disaster Risk Management for Village Development Committees

DRR workshop at Purano Jhangajholi VDC

SEEDS Asia is implementing a support project on building community' s capacity for Disaster Risk Management (DRM) in cooperation with the local organization - Center for Disaster and Climate Change Studies (CDCCS, targeting three villages of Dumja area in Sindhuli district, which suffered damage in the Gorkha Earthquake in April 2015. Up to now, after discussions and arrangements with the Village Development Committee of Purano Jhangajholi village, six planned workshops have been started since 29th January. The first workshop (implemented on 29th January) was on the theme of disaster risks and community DRR in Nepal, the second one (4th February) was on the damage and response in Nepal Earthquake in 2015 and the third one (11th February) was on preparedness for disasters and response of VDC. Through these three workshops, by thinking back on the Nepal Earthquake, participants learned basic knowledge about disasters, and also grasped the problems and matters about the response in Nepal Earthquake, for example, "staying in destroyed building because of being nervous, for not knowing about earthquakes" , "did not know how a VDC should response" .

Meanwhile, drought was raised as an issue that needed urgent response when the workshop discussed the disaster that might occur in the local area in the future. As the result, in the fourth workshop (25th February), a play scenario was created to aim to widely appeal to local residents for measures against drought.

From March, it is expected that awareness activities for community DRR will be implemented and there will be more discussions on how to conduct continuous DRR activities in the future.

Commemorative photo of participants after the first workshop ended

Reflecting on the response in Nepal Earthquake in 2015
and writing down the situation of that time

Presentation at the third debriefing session of Team Hyogo

"Team Hyogo" is an organization formed from the universities and NPOs in Hyogo prefecture which are implementing research on and support for affected people in Nepal Earthquake. On 20th February, in the third debriefing session of Team Hyogo, SEEDS Asia reported on current condition and future plan of this project. Moreover, information about local conditions was also shared among universities and support organizations.

At the third debriefing session of Team Hyogo

Japan

【Dispatch lecturers to conduct DRR class or event】

SEEDS Asia dispatches staff members as lecturers to conduct DRR training or classes in a wide range of methods and contents on the requests from any organizations such as schools, municipalities, residential communities and private sectors. In January and February, one of our staff members conducted the following lectures.

International seminar of Kochi Prefectural Trade Association at the New year's gathering (Kochi City, Kochi Prefecture)

On 1st February, Ms. Mitsuko Otsuyama, Head of Overseas Operation of SEEDS Asia, visited Kochi Prefecture to deliver a lecture titled "Living in the Country, Working in the Country- 11 years of experiences in India and Myanmar".

The seminar was jointly held as part of an annual event on the New Year's celebration by Kochi Prefectural government and Kochi Prefectural Trade Association, which consists of members from private companies in Kochi. The seminar was attended by 50 members of the association along with some officials from Kochi prefectural government and JETRO Kochi Office.

The lecture emphasized the common point between private companies and non-profit organizations that hold the same mission of providing necessary services to improve the quality of life of the people in the area. The common point to be highlighted was how essential it was for both private sectors and NGO/NPOs to understand and consider the historical and cultural aspects of the country where they operate or do business, especially in Asia where many opportunities exist in the rapid and robust economic development.

Poster of the Seminar

Lecture at Subaru Gakuen High School in Mie Prefecture for the sophomores of international course (in Mie prefecture)

On 22nd February, 2017, Ms. Mitsuko Otsuyama delivered a lecture with the title “Learn from the way a Centipede walks” for the sophomores of Subaru Gakuen High School in Mie Prefecture.

The lecture was held as part of “Professional Class” , in which the high school invites lecturers from outside of the school for students to learn about jobs and to plan for their future. Ms. Otsuyama named the title of the presentation after the Haiku poem “Look how a centipede walks (mukadeno ashiwo gorannasai) by Taneda Santoka, who was known as a representative poet of Japanese traditional poem Haiku, to share a tip for students to have a main axis in life when heading for their future. In addition to that, activities of SEEDS Asia in Myanmar and India were shared to the students. After the class, a male student commented: “I was surprised to hear about the social issues such as castes, gender and poverty in India, and that proper education and information were not so easily accessible in Myanmar, which worsened the impacts of disasters. I became grateful for what I received and considered as natural conditions in Japan such as DRR education in school and social welfare system, and hope that such conditions will become natural and common in other countries in the world, too.”

“The lecture made me think deeply about my future plan. A small thing such as a class or a book can influence one’ s life, and I realized how important it was to make efforts to achieve something I want. I also have a dream to work abroad, so I have to study a lot to be able to do it. I also felt like reading many more books to know about the history and culture of other countries. Now I am at the age that I have to decide my own future and I am still confused but I would like to be an adult who can utilize what I learn in this high school” , said a female student.

SEEDS Asia dispatches our staff members to organizations on their request for lectures with a wide range of targets and topics that relate to our activities (The fees are to be negotiated). If you are interested in inviting lecturers in DRR, please kindly contact: rep@seedsasia.org, to the persons in charge of Dispatching Lecturers in SEEDS Asia Headquarters.

In the lecture at Subaru Gakuen High School

Project entrusted by Kyoto city

Revision of the guideline on operation of welfare evacuation shelter in Kyoto city

In the fiscal year 2016, SEEDS Asia was entrusted by Kyoto city with revision of the guideline on operation of welfare evacuation shelters. The revised version will be utilized in Kyoto city from March 2017.

A welfare evacuation shelter is an evacuation shelter that targets the people who need concern for some certain matter when they live in an evacuation shelter.

Since it targets the people who have difficulties when they live in a general evacuation shelter, this is also called a secondary evacuation shelter.

In Kumamoto Earthquake in April 2016, it was reported that some social welfare facilities which signed agreement on welfare evacuation shelter with the city, town or village were so flooded with general evacuees that they could not receive the evacuees with need for special concern.

In the survey conducted by the Cabinet Office in 2013, 76% of respondents said that they did not know what a welfare evacuation shelter was like and where the welfare evacuation shelter of their local area was located, which raised the issue of improving awareness of welfare evacuation shelters.

The revised guideline on operation of welfare evacuation shelters in Kyoto city is expected to be open to the public via the following URL from April 2017. (The guideline is only in Japanese).

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000214221.html

Front cover of the guideline on operation of welfare evacuation shelter in Kyoto city.